

大町病院を守る会会報

No. 50

2016年11月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

千本シメジに香茸だ！！ がった祭り・キノコ狩り交流に守る会 27人



10月10日（祭日）今年も大黒町の「がったまつり」に合流しキノコ狩り交流が行われました。地域の皆さんと交流をしながら楽しくひと時をすごしました。

9時30分に病院の玄関前に集合し車に分乗して悪路を楽しみながら大黒町の共有林に到着。横沢大行実行委員長さんの挨拶、注意事項をお聞きしてグループに分かれてキノコ狩りを楽しみました。

1時間ほどの山歩きでしたが各々の感覚でキノコを採って、鑑定は県さのこ衛生指導員の飯島八郎さんにみて頂きました。食べられるキノコは少なく採ってはいけないキノコを教わる事となりました。

副院長の青木先生お一人だけ巨大な千本シメジをゲットされました。キノコ採りのあとは、ミニコンサートを楽しみながら、実行委員会の手作りの食事を頂きました。お土産に手作りの炭を頂き帰路に着きました。計画の日時が少しずれて参加できなかった方は来年、是非どうぞ。





がった祭りは盛会でした。

様々な催しが！！

9月市議会での病院に関する議論は・・・

議会冒頭の牛越市長あいさつから（大町病院関係部分抜粋）

市立大町総合病院の昨年度決算については、脳神経外科や小児科の発達支援などの患者数が増加し、外来収益は増加したものの入院では、年度当初から半年間、産科を休止せざるを得なかったことに加え、外科、整形外科などの常勤医師が減少したことから入院収益が伸びず、医業収益は前年に比べ減少した。また、退職手当やリハビリテーションなどの医療スタッフの増員による給与費などの費用が増加したことから、損益では4億3千万円の損失を計上する大変厳しいものとなった。一方、1月に地域包括ケア病棟を開設したほか、信州大学医学部附属病院総合診療科との連携により内科医師が増えてきたことから年度末には入院患者数が前年度に比べ増加に転じるなど、上向き傾向となった。本年度に入り診療報酬の改定があったがこの傾向が続いており、前年度同期に比べ入院患者数と診療単価がともに伸び、医業収益が増加している。

現在策定作業を進めている新たな病院改革プランでは地域医療構想や地域の医療環境を踏まえ急性期から慢性期までの幅広い医療を提供するとともに経営改善の取り組みを中心にして持続可能な病院経営を目指すこととしている。

先月(8月)26日から28日まで信大附属病院総合診療科及び県とともに大町病院が共催し「大町夏合宿～不明熱を学ぼう～」と題して2泊3日の学習会を開催した。この学習会では原因となる病気の特定が困難な発熱を呈する疾患について、亀田総合病院(千葉県鴨川市)の佐田竜一先生はじめ各分野における3人の専門医による講義や症例の検討会を行い、県内外から臨床研修性や医

学生など 40 人にご参加いただいた。学習会を通じて、若い医師などに大町病院の総合診療への取り組みを理解いただく絶好の機会となった。大町病院は大変厳しい経営状況にあるが医師数の増加を実現することが経営改善に不可欠であり、臨床研修の充実が医師確保に直結する取り組みであることから一層信大附属病院との連携を図っていく。

大厩富義議員の質問要旨

全国的な医師不足は大町病院へも影響し患者数も減った。医業収益が伸びず経営状況も改善されていない。27 年度決算で 4 億 3 千万と大幅な赤字となった原因は。累積欠損金は 10 億円を超えた。どのように解消するか。経営は破たん状態だ。どうするか。公営企業法を全適したが採算性を確保しなければ。経営改善が第一。地方独法、指定管理者制度の検討はしたか。大町病院は市民にとってなくてはならない病院だ。内部の改革にも目を向け、みんなで病院を作っていく体制づくりが必要だ。

理事者側答弁要旨

27 年度は産婦人科医の病気療養などにより 7 か月間の休診を余儀なくされ、3000 人余りの入院、4000 人ほどの外来患者が減少し 2 億円の減収となった。外科・整形外科の常勤医師が減少し、1 億 8000 万円の減収となった。累積欠損金は 10 億 8300 万円余り、資本がマイナスとなっており深刻に受け止めている。黒字化は短期的には難しい状況。本年 8 月までの実績では収益全体が前年を相当上回っている。高齢化に伴う地域の多様な医療ニーズに応え、32 年度を目指して黒字化していく。この数年の経営悪化は医師不足という構造的な問題。新たな病院改革プランで、総合的かつ抜本的な経営改革で乗り越えたい。

以上が大町市の 9 月議会の病院にかかわる内容です。経営危機を乗り越えるためには市民の負担感が重要なポイントとなっています。改革の速度を速めながら効率的な対応をしていかなくてはなりません。サポート役の守る会も踏ん張りどころです。

今病院内では毎日朝 8 時から診察の始まる直前の 9 時まで、医師達によるカンファレンスが行われています。1 人が経験した症例をみんなのが共有するための研究会です。

これ以外にも医師、職員を対象に、外部からの専門講師を招いての講演会は絶え間なく行われています。

いま、大町病院では若手の研修医、研修学生が大勢となり、医局隣の図書室を移動し、研修医の研究室にしました。若さがあふれる病院に脱皮しています。

大北医師会が厚生労働大臣表彰うける

(社)大北医師会(小野壽太郎会長：写真)は 9 月 9 日、救急医療功労者として厚生労働大臣表彰を受けました。これは休日当番医はじめ夜間小児科・内科急病センターへの医師派遣や長年にわたる地域救急医療の充実などの取り組みに対し認められたものです。これからもよろしくお願ひします。



きっと大町病院へ戻ってきてね！！

病院は若さいっぱいの研修医・医学生であふれる、歓送迎会行われる



〈11月1日〉

今月の大町病院での研修学生は内科に関森君、外科に赤木君です。関森君は大町2回目ですね。初期研修2年目の青村先生は来週で総合診療科の研修が終了になります。今夜は3人の歓送迎会、俵屋さんです。

他にも鈴木先生、頼母木先生、そして当院の初期研修医の三村先生、新津先生と若者がいっぱい賑やかです。

今日は指導医も太田先生、海野先生、新津先生、實近先生、平賀先生、五味先生、そして守る会の高橋さんと大勢参加してくれました。事務方も小林さんと横澤君が参加、総勢17人、急遽予定したわりには大勢集まりましたねー。

二次会は腹ペコ5人で久しぶりに豚のさんぼへ。

楽しい夜でした。

昼間はがっつり勉強して仕事して、夜は楽しくコミュニケーション。間もなく大町は寒くて長い冬に突入しますが、大町病院は元気な若者と、年の割に元気な指導医であふれ、とても熱いです。

〈9月27日午後7時〉

市内の飲食店で信大医学部から大町病院に研修に見えられていた長木啓鷹さん（富山県出身 1カ月間）的由山季さん（東京都出身 1週間）と青村大輝さん（東京都出身 7週間）の歓送迎会が盛大に開催されました。会には海野先生、五味先生、實近先生、山下先生守る会から高橋さんの総勢8人が参加しました。会は延々3時間に及びその間大町の良いところ、地酒の話、医療の話等盛り上がりました。最後は高橋さんの「健康に留意されいつか必ず、大町に戻ってきてください。」のあいさつでお開きになりました。企画した一人、高木先生は緊急手術が入り欠席されました。残念！！



大町病院のフェイスブックより（大変な医療現場）

9月17日

昨日は医師会の講演会の座長を務める予定だったが、緊急手術が入ってしまい、申し訳ないがお断りした。予定手術のあとに、95歳の胆嚢炎の緊急手術。ところがその手術中に白馬、小谷から続けてイレウスの91歳、虫垂炎の71歳の患者さんが紹介に。続けて3例の緊急手術、8月にこんなことは初めてだと思っていたが、1ヶ月でまたあるとはびっくり。最後の手術が終わったのは午前3時。疲れたー。



10月19日

昨日は朝から外来を止めて大腸穿孔の緊急手術。午後外来をやって、夜は再び胆嚢炎の緊急手術。最近、本当に緊急手術が多い。

22時過ぎに病院を出て松本の自宅へ向かった。

途中眠くてふっと気が付いたら赤信号が目に入った。慌てて急ブレーキを踏んだら止まったのは交差点の真ん中。車がいなかったのでセーフ。危なかったー。夜疲れての運転は危ないね。もうこんな生活12年もやっているけど、気を付けなくちゃ。

自宅駐車場に車を止めて、降りた途端に電話が。不吉な予感。案の定平賀先生から緊急手術の電話。嘘だろー、今、大町から45分かけて松本に帰ってきたところなのに……。一度は「そうかー、仕方ないね、分かった」と言って電話を切ったが、家に入ると起きていた家族に危ないからと反対され、よく考えてからもう一度電話、他の病院に送ってもらうことにした。無念。まあしかし、二人だから限界がある。無理をして自分たちが倒れてはいけませんので、コントロールしなければいけない。大町でできることはできるだけ断りたくないの、とても無念ではあるが……。

医師不足病院で大変だけど、地域に必要とされるからと信じて12年やってきた。いい時、悪い時はあるけれど、とにかく続けることが大事だと思ってやってきた。

今後の人口推計をみるとどうなるか不安ばかり。なかなか先の事を予想して対策するのは難しい。目の前にいる患者さんに何が出来るか、どうするのがベストかを考え、1日1日を過ごす毎日。

10月23日

昨日から○先生が夏休みに。1週間は研修医の新津先生と二人だけの生活で、8日間連続オンコールです。8日間ずっと病院はつらいので、3日に1度くらいは数時間の一時帰宅をしようかと。

昨日、○先生が休みに入る直前で虫垂炎の緊急手術があり。まだまだ緊急の波は続いています。

研修医との二人生活の間に緊急が来たら、泌尿器科の先生や総合診療科の先生、救急と内視鏡の非常勤で来てくれている上條先生などを巻き込んで、何とかできる範囲でやっていきますよ。患者さんに迷惑がかかってはいけませんが、トータルにバランスを考えてね。こういった時こそ、横のつながり、コミュニケーション能力が大切になります。

花壇の草取り、剪定、プランターかたづけ作業終わる



恒例の秋の花壇の草取りと植木の選定作業が10月22日（土）午前10時から行われました。週末の病院は開院日ということもあり作業参加者は少なく、10人で作業をしました。



ロータリーのプランターの片づけ、桜の木の枝おろし、南棟入り口北側の花壇の草取り、東門へのパンジーの花植えなどの作業を一時間ほどかけて済ませました。こののちイルミネーションの点灯後、コンサートを企画することを話し合いました。終了後お茶会をし、解散しました。なお今回八坂在住の遠藤由章さん（縄文ボディワーク）がボランティア活動に興味を持って参加してくれました。参加者は北村喜男、渋谷見博、神社正幸、矢口静人、黒岩良介、栗林学、小林千恵子、高橋博久、栗原洋子の皆さんでした。

イルミネーション点灯

12月1日(木)18時に

コンサートは18時20分 南棟さくらで

イルミネーションの点灯式を参加者みんなのカウントダウンに合わせ、市長・病院長・守る会会長の3人で、駐車場南側にあるモミの木のみで点灯式を行います。終了後直ちに南棟「さくら」でイルミネーション・コンサートを開きます。

職員、市民、守る会会員を対象とし、5組の病院医師、職員、市民が楽器演奏します。

誘い合って大勢の職員、会員、市民、皆さんの参加をお願いします。



M. T. Girls(検査室女性)・・・ハンドベル:ベートーベン「喜びの歌」

鈴木 智敬研修医・・・トラペット:曲目ラピュタから「ハトと少年」他

鳥居 旬医師・・・ピアノ:①モーリス=ラヴェル「ボロディン風に」
:②坂本龍一「MerryChristmas Mr.Laurence」

五味 志文医師・・・ピアノ: Alfred Nyuman「慕情」

海野 隆彦医師・・・チェロ: サン・サーンス「白鳥」

ピアノ伴奏 小林美恵さん



19時30分終了予定 **入場は無料**

イルミネーション準備作業終わる

11月13日（日）午前8時30分から十日会(会長：西山福重さん)の皆さん7人と守る会役員、会員7人で20メートルのモミの木にイルミネーションをセットしました。

寒い中白い息を吐きながら高所作業車に乗り、長いLED電球のラインを吊り上げました。今年はラインの3本を取り換え一層輝きが増すことが期待されます。作業は10時ころには終了しました。その後南棟入り口にチューリップの球根、青色センダイハギの苗を植えました。



お知らせ

次回のイベント「冬の交流会」は1月29日（日）、中山高原です。

◎会員募集中です！！市民・職員の皆さん病院を一緒に盛りたてましょう

◎会費を納入していただきました（順不同・敬称略）

小日向敦子、紺野桂子、宮脇哲子、荒井閑子、吉田弘巳、北澤とみ子、矢口定男、白澤千代子の皆さんです。

◎新規加入をいただきました（順不同・敬称略）

内川 孝(社)さんです。

※未納会員の方・・・会費納入は封筒に住所、氏名を記入の上、大町病院 1階医事課小林補佐または2階庶務課小林係長にお預けください。守る会へ届きます。

(問い合わせは高橋事務局次長 携帯電話 090-4054-2747 まで)

守る会の会報がインターネットで見られます

大町総合病院のホームページを開きます。右側のバナーの列を下へ降りていくと守る会のバナーがあります。守る会のバナーをクリックすると、

守る会会報が創刊号から49号まで見られます。これまでの活動の様子が分かります。ご覧ください。